

安心して暮らせるまちづくりのために 栄・防災ボラネット通信

発行：横浜栄・防災ボランティアネットワーク

36号
2022.12

2022 年度防災研修会 クロストークⅤ 報告

・テーマ：「災害時にどう備えるか」～地域のつながりをめざして～

・日時 2022 年 12 月 3 日（土）13：30～15：30 ・会場 栄区役所新館 4 階会議室

・参加者 地域防災拠点運営委員 20 名、横浜栄・防災ボランティアネットワーク 14 名、栄区役所 3 名、
栄区社会福祉協議会 2 名 計 39 名

2013 年から毎年 12 月に開催してきた研修会を、2016 年からは、「地域防災拠点」、「災害ボランティアセンター」、「横浜栄・防災ボランティアネットワーク」との連携を図るための研修会「クロストーク」として 2019 年 12 月まで継続して 4 回開催してきました。その後コロナ感染症のため中止していましたが、今回 3 年ぶりに開催することができました。参加人数を限定しての開催でしたが、グループワークでは大変熱心な意見交換が行われました。以下、研修会内容と研修会についてのアンケートの結果について報告いたします。



<研修プログラム>

1. 基調講演

- ◆地域防災拠点について …… 栄区役所危機管理担当
- ◆災害ボランティアセンターについて …… 栄区社会福祉協議会
- ◆横浜栄・防災ボランティアネットワークについて …… 横浜栄・防災ボランティアネットワーク

2. グループワーク （参加者が 6 グループに分かれて意見交換）

- ◆テーマ……「防災と私」「三者の連携について」その他自由に

○グループワーク終了後、地域防災拠点運営委員会連絡協議会会長 毛利勝男氏と栄区社会福祉協議会事務局長 室井慶之氏より講評をいただきました。

<アンケート報告>

アンケート回答：28 名（拠点運営委員 19 名、防災ボラネット 9 名）主な意見を纏めています。

1. 基調講演についての感想・意見

◆地域防災拠点について

・運営委員の任期について

* 2～3 年程度の継続が必要 * 最低 5 年の継続 * 毎年代わっても関わる人が増えて底辺が広がる * 若い人に役員が回り忙しく大変で 1 年任期が多い原因 * 役員の交代が 1 年のところと何年も継続しているところがある

・運営について

* 平日は若い世代は仕事があるので行政が中心に、休日は運営委員やボランティアが中心になるべき * 町内会・自治会の活動と拠点の運営を充実したい * 地域が主体となって活動せざるを得ない * コロナ禍で住民を集めての訓練はできなかったが、スタッフのスキルアップの為欠かさず開催して意義があった * 避難者はお客様の認識の打開が必要、地

域住民の認識不足

・ **その他の意見、質問**

- * 防災拠点の必要性、立ち上げまでの手順や訓練の必要性を確認でした
- * 拠点について、拠点運営委員は地震、その他の災害は区役所の運営と考えて良いのか？

◆ **災害ボランティアセンターについて**

・ **認知について**

- * 発災時最大の力となる組織で知識能力が頼もしい * 社協の役割が拠点運営と深いつながりがあると理解した * 機能、業務、立ち上げ、場所等基本的な内容を知った
- * 見える活動を望む、防災拠点とのつながりが分かりやすいと良い * 役割と機能が良く知られていない * 知らなかった

・ **運営について**

- * 運営について具体的な説明があると良い * なぜ図書館 * 図書館はふさわしい場所とは言えない * 自分も参加するようにしたい * 機能を動かす訓練が必要 * 自治会を通し地域住民に周知、協力体制作りが課題 * 災害時には連絡を取って応援を願いたい

◆ **横浜栄・防災ボランティアネットワークについて**

・ **認知について**

- * 理解できた * 初めて成立の経緯を知った * 活動の目的、内容を理解、多岐にわたり大変さも理解 * 今回初めて知った、今後も活動を知りたい * 知らなかった

・ **要望などについて**

- * 拠点の委員会に参加してほしい * 拠点委員会で話してもらおう * 人数が少ない
- * 活動には極力協力したい * 拠点の運営にメンバーの参加を要請したい
- * 拠点との関係が不明確

2. **クロストークについての感想・意見**

◎ **良かった**

- * それぞれの立場の話が聞けて良かった * 様々な意見が参考になった
- * 率直な話し合いができ、悩みを抱えながらも真摯な取り組みに敬意 * 避難所運営の経験を聞いた * 他地域の防災への対応方法が聞いた * 今後の運営に役立てたい

◎ **その他の意見**

- * 意見を出し合えたが、まとまりがなかった * 有事の行動は、実施訓練の参加による体験、動作認識をもつことが大切 * もう少し時間をとるか、開催を増やしてほしい
- * 拠点のカギ管理が悩みだと分かり驚いた * 高齢化は共通の問題、今後の課題になりそう
- * 高齢化で役員のなり手が少ない、環境を変える工夫が必要 * 災害発生時の地域活動を役員だけでなく、一般の人たちにも知らせる努力を * このような情報交換はとても大切
- * 拠点運営委員会で、燃料保有や避難所のキャパシティ、コロナ対応時の訓練の問題などが出て、悩みが多いようだ

3. **全体について**

◎ **クロストーク開催について**

- * 顔を合わせる機会は必要、拠点運営委員が入れ替わる 6 月頃（早い時期）にできると良い
- * 続けてほしい * 年 1 回は開催してほしい、大変良かった * 年 1 回より回数を増やした方が交流の場が増えるのでは * 反復して学ぶ事は思いを新たにするので必須な勉強会

◎ **その他の意見**

- * 時間等を気にしない研修会を * 研修会の目的をもっと明確にした方が良い
- * 発災時、倒壊がなければ『自宅』をもっとアピールすべき * 通常の拠点ミーティングや訓練にこの連携を意識していきたい * クロストークの話が聞こえづらかった * 各自治会と拠点とのかわりかわりが違うことがわかった、一覧表にしてほしい * 自分のことは自分でまもることの重要性を * 説明が 10 分なのはせわしすぎる * 拠点の課題・悩みの課題が中心で、連携についての話題に入れなかったのは残念
- * 意見、提言、討議内容について整理し、ノウハウの蓄積を図りたい

以上

～防災講座～Ⅰ

一活動報告一

*サロン「集い処」

日時：2022年8月20日（土）10:00～12:00

場所：野七里地域ケアプラザ

参加者：西ヶ谷団地シニアクラブ 20 名

協力者：大森、鈴木(記)



当日訪問した「野七里地域ケアプラザ」は、緑豊かで閑静な住宅地にあり、よく整備されスタッフの皆様も親切で「駐車場の案内」や「手押し車」の貸出等にも快く応じてくれました。

「新型コロナ禍」でもあり、今年に入ってから「防災講座」は「西湘災害ボランティアネットワーク」に続き 2 度目ですが、地域からは「新型コロナ」終息後の予約も多数頂いています。こうした「市民レベル」の講習会の受け持ち時間は多く場合一時間前後で有り、一つでも多くと考えると、口頭のみでは叶わないので、伝えたい「情報」は「テキスト」として 4 冊を持込配布させて頂きました。

当日の参加者は 20 名ほどの西ヶ谷団地のシニアクラブのご婦人達であり、「テキスト」であれば、失念することなくご自宅へ戻った「家族会議」や近隣との話合いや、ご家族に「防災担当」等が居られれば、今回の講習の効果が数倍にも広がるのが期待できます。

「自助攻略読本」……ライフラインが停止しても 10 日以上おにぎりを作るなど各家庭で大切なことを明記してあります。

「市民防災井戸端会議」……防災については憶測が徘徊しているので写真入りで現状を伝えています。

「紙上防災ミュージアム」……見て感じて覚えて実践に繋げるためのテキストです。当日はキャンプ用トイレ、太陽光充電カンテラのみを展示しました。

「かながわスカウトたい焼き隊記録」

……神奈川のスカウトらと共に四万枚以上の「たい焼き」をプレゼントしてきました。このボランティア活動は国内トップクラスで、マスコミにも多数報道されたほか、平成が令和に代わる際の皇室アルバムに紹介されました。

この四冊についてはケアプラザスタッフを始め、主催者のご希望により欠席された方にも配布しました。今後は「市民防災」のスタンダードとして全国に広がることを願っています。

長時間の「講習」でしたが、現地の悲惨な様子を「テキスト」の写真を参考に説明しましたが、皆様熱心に聴講して頂きました。

自作の「テキスト」は上記のほか 40 年のボランティア活動の成果として 40 種類以上に及び様々な防災ジャンルについて記述しています。今後は「定期開催」として、一人でも多くの栄区民にお伝えし備えて頂くことで「地域防災力向上」に役立てればと思います。



～防災講座～Ⅱ

*「ふくろうカフェ」12月9日（金）桂台 CP にて開催
シニアライフを豊かに過ごしたい人たちが自由に集まる「ふくろうカフェ」という団体があります。今回は災ボラの鈴木幸一さんを招いて防災講座を行いました。「テキスト」で説明を受ける他、駐車場に移動して「組み立て式救命いかだキット」を実際に組み立てその用途について確認しました。一人で製作するそのエネルギーと救命への思いに敬服いたしました。

記：大森（ふくろうカフェ）

*栄区民まつりに参加！

3年ぶりに開催された民祭りに区社協ボランティア部会のメンバーとして参加しました。パネル展示などして活動紹介をしました。



～防災講座～Ⅲ

* 庄戸 5 丁目「防災を考える ～日頃の備え～」

日時：9 月 16 日（金）13:30～15:00

会場：庄戸会館 参加者 17 名

依頼：大里裕子氏（上郷東地区民生児童委員）

協力者：大森、藤田（記）



庄戸五丁目も高齢化が進んでいることや新しく会員になられたかた方々も増えてきたこと、日頃、民生委員として地域の見守りを行っているが、『いつ起こるかわからない災害について』話を伺いたいという大里さんからの依頼を受け、上記の表題での講座を実施しました。

時節柄、人数を制限しての座学でした。最初に野七里ケアプラザからの福祉避難所についての話があり、防災ボラネットからは大森さんがパワーポイントによる災害現場の写真や大森さんのご自宅での備えの写真など身近に感じることができ、皆さんの参考になったことと思います。また、簡単なボラネットの紹介や防災についての YES/NO のゲームもあり驚きや笑いのある講座でした。

～Bブロック会議報告～（港南区担当）

日時：11 月 11 日（金）14:00～16:00 オンラインにて開催

テーマ：「被災地における感染対策の現状について」

講師：日本赤十字社神奈川県支部 事業部救護課 原田 康生氏



令和 4 年度第 2 回「横浜災害ボランティアネットワーク B ブロック会議」が開催されました。「被災地における感染対策の現状について」というテーマで講師の方より、実際にコロナ禍で被災された地域の避難所の運営工夫点や課題点を講師の方より、ご説明いただきました。この話をどう災害ボランティア活動に活かしていくか難しいところもありますが、センター開設時の参考にしていけるよう考えていきたいです。

今回は前回会議(6 月栄区)で議論された「形を変えた会議」としてオンラインでの開催となりました。オンラインならではの難しさややりづらさなど課題も浮かび上がってきましたが、柔軟に対応していく B ブロック会議として良い機会になったと思います。

今後も B ブロックの 5 区で「顔の見える関係づくり」のために積極的に参加し、連携していきよう議論をしていきたいと思っています。

区社協担当者（記）

次回 6 月頃 磯子区担当

◎ブロック会議とは、災害時に区を越えて協力できるよう、横浜市を 4 つのブロックに分けて、年に 2～3 回の会議を開催。B ブロックは、栄区・港南区・磯子区・戸塚区・金沢区の 5 区で構成されています。

～これからの予定～

◆災害ボランティアセンター開設・運営訓練

- ・ 2023 年 2 月 20 日（月） ・ 栄図書館及び区社協で開催されます
- ※災ボラ会員の役割、必要人数などは、1 月の運営委員会で決定します

◆役員会・運営委員会

- ・ 2023 年 1 月 16 日（月）、3 月 6 日（月） 役員会は 13 : 00～
- 運営委員会は 14 : 00～

ホームページをご覧ください！

「栄防災ボラネット」で検索してください。

横浜栄・防災ボランティアネットワークへの連絡は
栄区社協：TEL 045-894-8521
FAX 045-892-8974